

2023年、今年を「観光V字回復の年」に

座談会 旅行業4社トップが語る、「ポスト



米田氏

新しい年、2023年の展望を。米田 水際が緩和され、インバウンドが目に見え、パッケージツアーをいち早く受け入れたが、その後のF・Tも大きく動いている。旅館・ホテルの稼働率を見て、いい数字が出ている。国内の動きもある。国内の人たちは、われわれの年代はあまり動かないが、若い人が本気で動いている。インバウンドがいい。教育旅行もコース期間が変わっ

新規事業を本格始動 業界挙げた陳情必要

米田 小谷野

でも、必ずと言っていいほど実施をする。唯一、懸念するのが海外旅行。コロナ前の水準に戻るには、しばらく時間がかかるだろう。23年は、ネガティブではない構造改革を行う。さらなる組織体制の強化と、先ほど触れた新規事業。八つの事業について実証実験が終わり、今年は本格的に始動さ

復に、また強弱がある。業界を挙げた陳情を、さむに行つし進めるべきだ。昨年秋からの全国旅行支援では、全国的な移動を前提とした旅行が推進されている。マイクロツーリズムだ。インバウンドは加速度的に増えているが、コロナ禍で縮小した要員をその需要に対応できるように早急に対応しなければならぬ。人の問題は旅館・ホテル業界も抱えており、必要がある。観光産業は裾野が広い。旅行業だけではなく、旅館・ホテルなどの宿泊、鉄道、航空バスなどの交通等、関連する業界が連携し強く推

23年の旅行業界の展望



小谷野氏

先ほど山北社長がおっしゃったように、10月に全国旅行支援が始まったことは非常に大きく、前年と比べて、お客さまが自分自身で考え行動できる環境が整ってきた。最近、大阪出張する機会が多いが、新幹線はほぼ満席で、かつスーツケースを持った方が多い。外国の方が加速的に増えていると感じる。旅館・ホテルのヒューフェ会場では手袋なしが増えている。卒業旅行を含めて、若い人の旅行が増えたとも実

例えは教育旅行は取り消しという選択がほぼなくなっている。海外旅行は、田安も大きい。部分にはかなり進化した。例えば地域のイベントにおける旅行全体で言うと、海外旅行の価格高騰。燃油サーチャージの上昇と、航空運賃の値上がり。地上費も物価高騰で高くなっている。ただ、欧州の一部の国については地政学リスクの影響から敬遠される傾向があるものの、それ以外の国については実は行きたくないという声はあまり上がっていない。国内のトップicksを挙げると、小谷野 善光寺の御開帳が1年延期され、諏訪の御柱祭と奇跡的に同じタイミングで行われた。当社のルートでも

10月11日からの全国旅行支援の開始と水際対策の緩和。これは非常に大きかった。国内の人流が目に見え、増えつつある。それに輪をかけて訪日旅行者が、観光地の至る所で見られるようになった。これは1年前と比べて大きな変化だ。ただ、一般団体の動きがまだ弱い。「やりたい」「開催したい」という声は多く必要はあるのだが、実現するまで

顔認証システムの導入、LINEアプリを活用したデジタル定期券・回数券の販売開始や同アプリを活用した観光需要回復支援としてのイベント予約・参加・サービス提供手続。これも1年前とかなり変わった部分だ。——ウクライナ問題は旅行業界にも少なからず影響を与えている。山北 当社はロシアにも拠点があり、従業員にとっても厳しい状況が続いている。ある新幹線の団体臨時列車を走らせ、首都圏のお客さまを多く送ってきた。各地でイベントが再開し、地域と連動した旅行商品で誘客をサポートできたことが昨年1年間で良かった点だ。百木田 個人的な興味としては、ヤクルトストロウムの村上選手が50本のホームランを打った。私はあの日、たまたま球場近くについて、深刻な顔をして球場入りする村上選手をはじめ主力メンバーを見たのだが、最終戦であのような結果になって良かった。大谷選手が所属するエンゼルスもスタジアムにも行ったが、確実に日本人アスリートのスターが上がったような気がしてうれしかった。国内のスタジアムも観客をフルに入れることができるようになり、まだ声を出せるの応援は制限されている場合もあるが、大型イベントも含めて国内に人流が戻ってきていることを実感した。小谷野 ツーリズムEXPOジャパンが2年ぶりに開催されたことも触れなければいけない。百木田 台風に見舞われたが、悪天候でも、なくさんの方に来ていただいた。小谷野 旅行に対する世間の強い期待を感じられた。このような動きが出てきたことはうれし

旅行需要の回復実感 消費者の意識が変化

小谷野 百木田

小谷野 あっという間の1年というのが実感。前年と比べると、周りの出来事に「喜ぶ」一喜一憂しない覚悟が年初からあったがそれはできてきたと思う。旅行需要の回復を意識した出来事として、4月からJATA(日本旅行業協会)による海外視察が始まったこと。加えて5月末にインバウンドの実証実験を開始したこと。人の動きがきっかけが一つ。たことで、早晩国内も含めてある程度、活発な動きが出るだろうとかなり期待を持

感じている。23年も期待できる部分だ。百木田 昨年、この場所で座談会に参加させていただいたとき、1年後は状況が大きく変わっているのかな、と思うたが、ふたを開けてみたら以前とあまり変わらぬ風景だった。ただコロナに慣れたままというよりは、消費者の方の意識がだいぶ変わったような気がする。感染者の拡大と収縮が繰り返される中で、旅行に関しては

が、フェューエル(燃油)サーチャージの高騰により、海外陸上費が平常時の3割から4割高いという現象が大きく影響している。当社は前年と変わらず、「地域」を意識した取り組みを続けている。支店を拠点として、地域に根を下ろし、地域が神益できる取り組みを継続して行っている。デジタルを活用した取り組み、当社はソーシャルインベションと呼んでいるが、そ

ある新幹線の団体臨時列車を走らせ、首都圏のお客さまを多く送ってきた。各地でイベントが再開し、地域と連動した旅行商品で誘客をサポートできたことが昨年1年間で良かった点だ。百木田 個人的な興味としては、ヤクルトストロウムの村上選手が50本のホームランを打った。私はあの日、たまたま球場近くについて、深刻な顔をして球場入りする村上選手をはじめ主力メンバーを見たのだが、最終戦であのような結果になって良かった。大谷選手が所属するエンゼルスもスタジアムにも行ったが、確実に日本人アスリートのスターが上がったような気がしてうれしかった。国内のスタジアムも観客をフルに入れることができるようになり、まだ声を出せるの応援は制限されている場合もあるが、大型イベントも含めて国内に人流が戻ってきていることを実感した。小谷野 ツーリズムEXPOジャパンが2年ぶりに開催されたことも触れなければいけない。百木田 台風に見舞われたが、悪天候でも、なくさんの方に来ていただいた。小谷野 旅行に対する世間の強い期待を感じられた。このような動きが出てきたことはうれし



謹賀新年